

R7 研究の全体計画

1 研究主題 主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成

2 主題設定の理由

(1) 今日的な課題から

近年、情報化やグローバル化、少子高齢化といった社会的変化が加速度的に進展するようになってきており、予測が困難な時代となっている。これらの変化は、どのような職業や人生を選択するかに関わらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。

そのため、子どもたち一人一人が予測できない変化に主体的に関わり、AI の進化に対応できる思考力や判断力などの人間の強みを発揮することが重要である。

また、学習指導要領では、「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」という三つの柱で構成された資質・能力の育成を目指すこと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることなどが記されている。

(2) 学校教育目標の具現化から

【本校の学校教育目標】

心身ともに健康で、共にみがき合い、共に伸びていく子どもの育成

本校では、上記の教育目標のもと、未来に向かって大きな夢と希望をもって、自分のモチベーションを遺憾なく発揮し、生き生きと活動できる「かしこい子、やさしい子、たくましい子、はたらく子、佐原が大好きな子」を育て、“希望の登校、満足の下校”佐原笑楽校を目指している。つまり、社会の一員という自覚をもって心豊かにたくましく生き、様々な困難にぶつかったときでも、自ら考え解決していける児童、母校を思いふるさとを愛する児童の育成をねらいとしている。そのためには、自らの課題を主体的に考え、自分なりの考え方をもち、それを広げたり深めたりして自己実現していく力が求められる。実生活と関わりのある学びを通じ、学んだことを生活や学習につなげ、考えを深める学びを創造していくことは、本校教育目標の具現化の大きな柱であると考えます。

(3) 本校の児童の実態から

児童数は670名で学級数28（特6）であり、児童は明るく元気で、素直である。一昨年度から算数科と特別支援教育を基盤として「主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成」を主題に取り組んできた。

算数科における近年の児童の実態は、千葉県標準学力検査において、「主体的に学習に取り組む態度」に関して肯定的に回答していた児童は、どの学年も県平均を上回る高い数値を示している。「知識・技能」「思考・判断・表現」に関しては、県平均程度の結果となっている。1年目の研究においては、自らの問いに対して進んで解決をしたり、学んだことを生活や学習に活用したりすることができるように取り組んできた。さらに2年目では、主体的に多様な考えを出し合い、問題を解決し、学びを深められるように、問題解決の過程で「数学的な見方・考え方」を働かせるよう意識付け、授業改善を進めてきた。

また、本校の特別支援教育における実態としては、特別支援学級及び通級で学習する児童の発達段階が様々で、学習面、生活面共に個人差が大きいことがあげられる。そこで昨年度の研究では、自立や社会参加に必要な資質・能力を身に付けることができるよう、一人一人の特性や実態を踏まえ、自立活動の6つの柱を軸として主体的に活動することの重要性について明らかにした。

算数科では、問題解決の過程で「数学的な見方・考え方」を働かせるよう意識を高めることができたものの、学びの深まりを実感できるまでには至っていない。今年度、研究を進めるにあたり、算数科では「数学的な見方・考え方」を意識して働かせ、自分の考えを表現できるようにしていく。また、学習の振り返りを通して、学びの深まりを実感できるようにしていく。

特別支援教育では、自立・社会参加に必要な相手意識をもって関わっている児童が少ない。そこで今年度は、相手意識をもって人と関わっていくことを継続しつつ、児童一人一人の進学を見据えた段階的な支援や指導方法を明らかにしていく。

以上のことによって、主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成につながると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

- 問題解決の過程で「数学的な見方・考え方」を意識して働かせられるようにすることで、主体的に多様な考えを出し合い、問題を解決し、振り返りを通して学びの深まりを実感できる子どもの在り方について、授業実践を通して明らかにする。 [算数科]
- 一人一人の特性や実態を踏まえ、自立活動の6つの柱を軸として、自立や社会参加に必要な資質・能力を身に付けることができるような支援・指導方法のあり方について、授業実践を通して明らかにする。 [特別支援教育]

4 めざす子ども像

- 自ら課題を見つけ、主体的に追究していく子 【かしこい子】
- 自分の思いや考えを、適切に表現できる子 【かしこい子】
- 他者との協働活動の楽しさや喜びを実感できる子 【かしこい子・やさしい子】
- より良い生き方を探り、進んで努力していく子 【たくましい子・はたらく子】
- 母校を思い、ふるさとを愛する子 【佐原が大好きな子】

5 研究仮説

- [算数科]
問題解決の過程において、「数学的な見方・考え方」を働かせることができるような数学的活動を行えば、児童は主体的に多様な考えを出し合い問題を解決し、学びの深まりが実感できるであろう。
- [特別支援教育]
学習場面において、自立活動の6つの柱から必要な区分・項目を選定し、それらを相互に関連付けながら学習活動の工夫をすれば、共に関わり合いながら自立や社会参加に必要な資質・能力を身に付けることができるであろう。

6 研究の内容

(1) 研究目標に対する基本的な考え方の理論研究

(2) 算数科、特別支援教育についての理論研究

[算数科]

- ・ 日常生活と関連付けた問題解決について
- ・ 児童の変容の見取り方について
- ・ 「数学的な見方・考え方」を働かせた問題解決について(系統表含む)

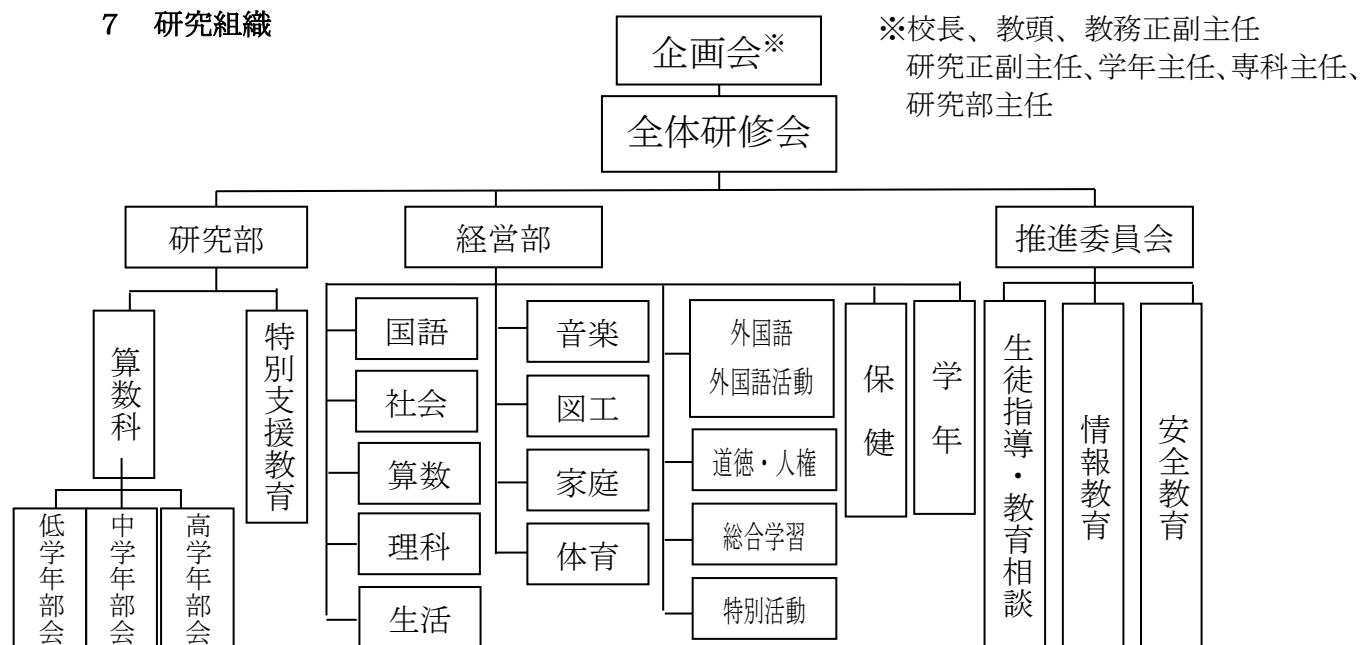
- ・「数学的な見方・考え方」を働かせるための支援について(揭示物等)
- ・振り返りの場面における「数学的な見方・考え方」を通した自己認知について(統合的・発展的な振り返りの書き方について)
- ・教科書の活用の仕方(正しい読み取り方)
- ・指導案の書き方について

[特別支援教育]

- ・個々の実態把握と個別の支援・指導計画の見直し
- ・自立活動フローシートの作成について
- ・児童の変容の見取りについて
- ・特性が異なる児童同士の小集団作りについて

(3) 仮説に基づいた授業実践・分析・考察

7 研究組織



8 研究計画

月	日	曜日	研 修 内 容
4	2	火	学年研修
	3	木	保健研修 (アレルギー対応研修)
	10	木	経営部会・推進委員会 (経営方針、年間指導計画等の立案)
	17	木	学年研修
	24	木	個人研修 (家庭確認等)
5	1	木	研究企画会
	8	木	全体研修 (今年度の研究の共通理解、理論研修)
	15	木	全体研修 (心肺蘇生法講習会)
	19	月	職員会議 (指導案について)
	22	木	個人研修
	29	木	学年研修
6	5	木	部会研修 算数指導案検討①・教材研究
	12	木	部会研修 算数指導案検討②・教材研究

	1 9	木	部会研修 算数指導案検討③・教材研究
	2 6	木	全体研修（第1回校内研究会について）・授業準備
7	2	水	第1回校内研究会（算数科） ※24日（火）指導案発送
	3	木	学年研修
	1 0	木	個人研修・
	1 7	木	部会研修 特支指導案検討①・算数科指導案検討①
	1 8	金	経営部会（備品整理）
	2 8	月	職員作業
9	1	月	学年研修 作品処理 特支指導案検討②
	4	木	部会研修 特支指導案検討③・算数指導案検討②
	1 1	木	全体研修会（第2回校内研究会について）
	1 8	木	部会研修 算数指導案検討③・教材研究
	1 9	金	第2回校内研究会（特別支援） ※11日（木）指導案発送
	2 5	木	学年研修
	2 9	月	所長訪問
1 0	1	水	第3回校内研究会（算数科） ※22日（月）指導案発送
1 0	2	木	個人研修
	9	木	個人研修
	1 6	木	学年研修
	2 3	木	学年研修
	3 0	木	学年研修
1 1	6	木	個人研修
	1 3	木	個人研修
	2 0	木	学年研修
	2 7	木	教科研修（指導案について）
1 2	4	木	個人研修
	1 1	木	学年研修
	1 8	木	教育課程①
			冬休みに研究のまとめを作成
1	8	木	個人研修
	1 5	木	個人研修
	2 2	木	教育課程②
	2 9	木	学年研修
2	5	木	入学前保護者説明会
	1 2	木	経営部会・推進委員会
	1 9	木	研究企画会
	2 0	金	教育課程③
	2 6	木	学年研修
3	5	木	個人研修（年間指導計画の見直し）
	1 2	木	個人研修
	1 9	木	個人研修
	2 3	月	備品整理